

RELATIONS MAGAZINE!

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌
2025 March vol.17

わかもんだろ、それでいい。 ～【特集】浜益わかもん会の取組み



RELATIONS MAGAZINEバックナンバー

2020年春より発行してきたRELATIONS MAGAZINEのバックナンバーはWEBよりご覧いただけます。紙媒体での送付をご希望の方は、お気軽に事務局までお問合せください。

- Vol.9 【特集】浜益版集落の教科書ができました
- Vol.10 "リレフェス22"オンライン関係人口フェスティバル開催決定！
- Vol.11 オンライン関係人口フェスティバル"リレフェス22"開催しました！
- Vol.12 持続的な北海道に向けた関係人口を活用した次世代育成事業活動報告書
- Vol.13 地域に関わる若者たちの取組紹介小さなチームとチャレンジが生まれる場づくり。
- Vol.14 地域に滞在すること。～厚真町長期滞在プログラム参加者より
- Vol.15 石狩市浜益×関係人口10年の歩み
- Vol.16 【特集】高校生と地域の青年が未来と普通を考える。



Vol.1～12は休眠預金を活用した「北海道未来社会システム創造事業」の助成を受けて作成しました。

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」とは

179リレーションズでは、北海道各地の"地域に関わる「入り口」"をつくります。ひとつひとつのまちや活動に注目し、住んでいる場所や世代を超えて誰もが対等な関係性を大切にしなが、若者をはじめとする次世代の担い手が育ち、変化に強い持続的な地域がつくられていくことを目指します。

特に以下の項目を重点項目として展開しています。

- ① 「関係人口」創出により、地域外の若手人材を地域の活動へ巻き込みます。
- ② 地域内の若者が、主体的に展開する様々な活動と連携します。
- ③ 関係人口創出WEBマガジン「179RELATIONS.net」から参加する若者のリアルな声をお届けします。

季刊誌「RELATIONS MAGAZINE」では、179RELATIONSの最新情報やホットな話題をお届けします。みなさんとの連携のきっかけになればと思いますので、気になる情報や活動がありましたらお気軽にお問合せください。



運営団体「NPO法人ezorock」とは



“ezorock”は、「社会を揺り動かす」という理念のもと、2000年に行われた「RISING SUN ROCK FESTIVAL」における環境対策活動をきっかけに2001年4月に設立されました。青年層のネットワーク拡大とともに、北海道の地域課題に対して、若者のアイデアやパワーを届ける事業を展開。活動を通して若者が自らの人生と社会を切り開いていく機会を作り出しています。

2023年度実績
活動日数 387日 人数 のべ1,230人 地域 21市町村

関係人口創出プロジェクト「179リレーションズ」季刊誌

RELATIONS MAGAZINE!

PRODUCED BY ezorock

〒064-0809 札幌市中央区南9条西3丁目1-7

TEL/FAX 011-562-0081

E-mail info@ezorock.org

WEB <https://www.ezorock.org/>

<https://lin.ee/ugUhj0g>

<https://www.facebook.com/ezorock/>

<https://twitter.com/ezorock/>

<https://179relations.net/>



<https://www.ezorock.org/>



わかもんだろ、
それでいい。

浜益わかもん会

北海道内各地では地域内外から若者たちが自分たちのまちを、これからのまちを考えて活動しています。今回は、石狩市浜益で2017年に青年会の後継団体として立ち上がった浜益わかもん会の事例です。



TOPIC 2

スポーツから地域行事まで

わかもん会の活動の中心はスポーツ部や小・中学生を対象としたバドミントン教室等を行っています。また、地域行事ではお手伝い・出店に加え、ティラノサウルスレース等をイベント企画しています。子どもを対象した活動では、放課後子ども教室の一部として工作きょうしつや流行りのゲームソフト「マイクラフト」を使いながら、子どもたちと空きスペースの活用を考える活動を展開しました。各地域で七夕行列や盆踊りを実施し、ある地域では盆踊りが復活したとのこと。幅拾い活動に加え、新たな特産品開発として「生産部」があるのもわかもん会らしい発想かもしれません。



平日夜に開催されているスポーツ部の活動には、関係人口として浜益を訪れる若者たちも、たまにお邪魔することがあります。大人も子どもも一緒に体を動かして自然と交流が生まれる時間です。

TOPIC 3

これからの浜益で

わかもん会では、部に分かれ、体系的に活動を行いながら、スムーズに世代交代しながら活動を続けていく工夫をしています。また、旧岩崎養魚場（浜益フィッシングパーク）の再生プロジェクトなど新プロジェクトも始動しています。決して人口の多くない浜益。ひとり何役も担い、仕事に地域活動に活躍しています。様々な場面で、今までもどりの地域活動の継続が難しくなる中で、わかもん会はわかもん会としてこれからの浜益を考えています。浜益を故郷に持つ人たちがいる子どもたちも、今目の前にある良さを知ってもらいたい。先駆者である諸先輩たちの想いを引き継ぐ。自分たち自身も楽しみながら成長し、アイデアや未来をかたちにする。そんな想いを掲げて、年齢も職業も関係のないチーム「浜益わかもん会」はこれからも活動していきます。



この日、関係人口としてお祭りのお手伝いに来た若者たち（写真右の3人）も浜益Tシャツを着て、説明を聞いています。わかもん会メンバーと混ざりながら、徐々に訪問者から、少しずつまちに関わる仲間になっていきます。

最近の179リレーショング

pickup

地域に関わる人たちのためのゲストハウス「はまますベース」始動！

2020年頃から整備を進めてきた拠点を正式な宿泊所として登録しました。見ず知らずの人の宿泊場所ではなく、地域に関わるための拠点となります。教育機関の実習受入や研究の拠点、視察受入なども行います。ぜひ一度浜益へお越しください！



pickup

第64回社会教育研究全国集会北海道集会 in 恵庭に参加します

2025年8月23-24日に北海道文教大学で開催される社会教育研究全国集会に参加します。浜益での取り組みも事例発表させていただき予定です。全国から北海道に集まり、これからの暮らしとみなさんの小さな実践を考える時間です。「社会教育」がピンと来ない方も、お気軽に覗いてみてください。

WEBマガジン最新記事

No285

2024年度厚真町長期滞在実習～”壁新聞”編～

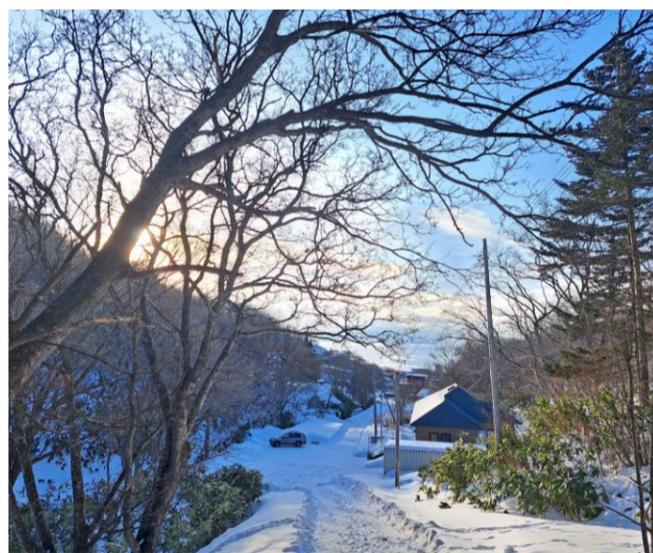
No268

命をいただくこと、に触れる～羊鶏クラブ



編集後記

浜益に関わっていると必ず聞くのが「わかもん会」というキーワードです。この方も!?一体何人いるの!?!と、今でも全貌の掴めないチームですが、浜益に愛着を持つみなさんばかりで、浜益の大切なものを担う、地域に欠かせない団体であることは間違いありません。関係人口として地域に関わる際、地域に詳しい方に出会うだけでなく、同世代やロールモデルになり得る少し先の世代との出会いも大きな刺激になります。これからは様々な場面でわかもん会のみならずにはお世話になると思います。今後よろしくお祈りします！（水谷）



札幌から向かうと、どんより雲のかかっている日も多い浜益ですが、天気の良い日には素晴らしい景色が広がります。そして、ちょっとシャイながら、暖かく迎えてくださる地域の方々のがなよりの魅力です。

TOPIC 1

浜益わかもん会とは

2017年8月、石狩市浜益で、職業が違っていると交流が少ないことに疑問を感じた農業や漁業に携わる16人の若者によって設立されました。設立から7年が経った現在の会員数は約40人。「わかもんだろ、それでいい。」を合言葉に地域に根付いた活動を行っています。

かつて「陸の孤島」と呼ばれていた浜益。浜益わかもん会が活動する石狩市浜益区は、札幌から車で約1時間半。日本海と三方を険しい山々に囲まれる地域です。2005年に石狩市、厚田村と合併。現在の人口は約千人、高齢化率55%以上の数字だけで見れば少子高齢化の進むこのまちは、かつてその厳しい自然環境から「陸の孤島」と呼ばれていました。現在も浜益の厳しい産業は漁業、農業で、わかもん会メンバーの多くも一次産業に携わりながら、このまちで暮らしています。わかもん会は、若者といっても自己申告で気持ち若ければ何歳でもOK。実に多様なメンバーが、心地良い距離感で「こんなことやってみよう」と、地域の「こんなことやってみよう」をみんなで見守っています。